プロジェクトを成功に導く10のヒント

2024年1月

夢を拓く 女子中高生のための キャリア・サポート®

SOROPTIMIST INTERNATIONAL OF THE AMERICAS, INC.

1. 前もって準備しましょう

地域で「夢を拓く」プロジェクトを成功させる鍵は準備にあります。ファシリテーターは、事前にセッションを数回読み通し、台本部分は声を出して練習しましょう。クラブの女子中高生助言グループの協力を得て、練習セッションを1、2回行うことを検討しましょう。ファシリテーターは、参加者に尋ねる質問のいくつかについて、自分自身の答えを考えておくとよいでしょう。また、誰も答える人がいない場合に、自分の例を紹介できるように準備しておきましょう。例えば、自分の「夢のコラージュ」を作成するなど、自分自身でセッションの活動・作業の一部を試しておくこともできます。

2. 信頼関係を築くことにエネルギーを注ぎましょう

会議もしくはセッションの初めに、司会を務めるファシリテーターは、名前と職業だけでなく、もっと自分自身について紹介する時間を持つようにしましょう。参加者が、司会を務めるファシリテーターが、どんな人物で、どんなことを行っており、どんなことを大切にしているかを知る機会を作りましょう。それは、ファシリテーターへの信頼と尊敬を構築するのに役立ち、「夢を拓く」の中で自分の経験を話すように頼まれたとき、信頼できる人物からの依頼として参加者は安心することができます。

3. 対象に合わせて調整しましょう

「夢を拓く」のカリキュラムは、出発点としては有用ですが、取り上げられている話題が、あなたのクラブのある地域、もしくはクラブが対象とする女児たちと、あまり関わりがないということもあるかもしれません。会員、地域社会のパートナー、女子中高生助言グループからの助言、コメントに従って、セッションの焦点や組み立てを調整するようにしましょう。助言グループに協力を依頼することで、クラブは、地域社会の女子中高生たちのニーズを効果的に見つけ、「夢を拓く」プロジェクトを通じてそれにより適切に応えることが可能になります。

4. 気持ちに配慮しましょう

話題の一部、特にセッション4と5の話題は、参加者によっては話しづらいと感じるかもしれません。手痛い失敗を直接経験した参加者もいるかもしれませんし、取り上げられた困難に直面している人を身近に知っているかもしれません。そうした場合には、デリケートな問題かもしれないと、前置きするようにしましょう。グループの会話の流れに注意しながら、参加者に、話し合いによってさまざまな感情が湧き起こりコントロールするのが難しいと感じたら、部屋から出たり、休憩をとってもかまわないと伝えましょう。そうした参加者には、セッションの後に、個別に話しかけ、支援を提供し、専門家に相談することもできることを知らせましょう。

5. 一貫性のある行動をとる

女子中高生たちは、家庭や学校生活の中でたくさんの不安定要素を抱えているかもしれません。ですので、彼女たちが、信頼でき親身になってくれる大人と新しい大切な習慣作るのを助けるために、一貫性のある行動をとることが重要です。会場に現れた参加者が予定より少なくても、会議やセッションを中止しないでください。その日の計画を調整する必要がでてくるかもしれませんが、何もせずに女子中高生たちを家に帰すことはしないでください。やって来た女子中高生たちに、来なかった生徒たちと同じくらい彼女たちは重要な存在であることがわかるようにしてあげましょう。また、どのセッションも、直前にキャンセルしたり、会合の日時を大幅に変更するのは避けましょう。

6. 別の視点から見てみましょう

プロジェクトを準備したり、ファシリテーションする際には、女子中高生の視点からこの経験を想像してみてください。例えば、参加者が、興味がなさそうだったり、コミュニケーションをとるのが難しい場合は、恥ずかしがっていたり、遠慮しているだけかもしれませんし、大人に不信感を持っているのかもしれません。参加者から苛立ちや反発を感じたときは、思春期の身体的、感情的、社会的困難さを思い出し、それらがそうした振舞いの背後にあるかもしれないと考えるのは役に立ちます。視点を変えることで、プロジェクト全体を通じて起きる可能性のある様々な課題を理解し、忍耐強くなることができます。視点を変えるには、まず、他の視点が存在すること、そして、自分の意見は他の人の意見とは違うことがあることを認識することです。相手に自分の意見を擁護しなければならないように感じさせるのではなく、相手を尊重する言葉使いと口調で質問して、もっと明確に答えることができるようにしてあげましょう。それから、議論したくなる衝動（そして言い負かしたくなる衝動）は抑えましょう。参加者が言ったことを言い換えたり、繰り返したりして、あなたが参加者が言おうとした点を理解したことがわかるようにしてあげることもよいでしょう。

7. 成功を祝いましょう

どんなに小さなことでも、成功を祝いましょう。物事がうまく運んだときにそれを大きく褒め称えることは、とても大きなプラス効果を自尊心にもたらし、もっと頑張ろうというやる気を引き出すことができます。困難な生い立ちを持ち、数多くの失敗を犯したと感じている女子中高生もいるかもしれません。そのような生徒にとって、前進する努力が称えられたり、優れた結果を祝ってもらうことは、正しい方向に進む意欲を維持することに役立ちます。セッションに出席するために出かけてきたことに感謝しましょう。各セッションの終わりには、努力と参加に感謝しましょう。

8. ソーシャル・メディアを試しましょう

親と参加者の承諾が得られた場合、セッション中に活動に取り組む参加者の写真を撮影しましょう。それらの写真を、その後のセッションの会場に飾ったり、フェイスブックのアルバムに掲載してタグ付けしましょう。女子中高生たちに、それらに楽しいキャプション（写真説明）を付けてもらいましょう。次のセッションの日時の確認をしたり、割り当てた宿題や、持参する必要のあるものについてお知らせしたりするには、グループ・テキストを送信するのが便利です。参加者が使い慣れているテクノロジーを使用することで、快適で有意義な方法でプロジェクトに参加してもらうことができます。それはまた、ソロプ

チミストやプロジェクトへの肯定的な理解を生み出し、将来の参加者を引きつけるのにも役立ちます。

9. フォローアップしましょう

女子中高生たちに、あなたが彼女たちのことを気にかけていることを伝えましょう。少しおかしいと思われることを見たり聞いたりした場合、もしくは参加者の誰かがセッションに集中していないようだと思われる場合、後で尋ねて、元気にしているか声を掛けましょう。ソーシャル･サービス、カウンセリング、もしくはその他の地域機関に橋渡しをすることが適切かどうか検討しましょう。フォローアップすることは、信頼関係を維持し、その女子中高生が途中で辞めることを考えている場合にプロジェクトに関わり続けるのを助けます。

また、これは簡単ではないですが、「夢を拓く」の終了後も参加者と連絡を維持することが大切です。プロジェクト中に生まれた信頼関係を維持するために、キャリアガイダンス・セッションでペアになった参加者に、プロジェクト終了後、少なくとも月1度はフォローアップするようファシリテーターに勧めてください。「夢を拓く」の終わりに、女子中高生たちに、ファシリテーター全員の連絡先と、ボランティア活動、インターンシップ、非公式な面談の機会など、地域社会とつながることができる具体的な情報を提供するようにしましょう。ピザを食べながらの再会パーティーや映画鑑賞会など、過去の「夢を拓く」参加者が集まれるイベントを企画するのもよいでしょう。

10. 前向きな姿勢を保ちましょう

まったく新しいプロジェクトを実施するのは簡単ではありません。クラブは途中、出会ったこともない困難にぶつかるかもしれません。その過程では、プロジェクトは完璧ではないことを認め、何があっても前向きな姿勢を維持しようと努めてください。あらゆる課題を学習と成長の機会ととらえることで、翌年に「夢を拓く」を向上させるべき点に気付くことができます。ミスや失敗を振り返ることは、長年かけて効果的なプロジェクトを作り上げるのに役立ちます。